

支部だより

御挨拶



九州歯科大学同窓会
大阪府支部
支部長 鳥羽英紀

平成9年1月25日
第 2 号

発行人
九州歯科大学同窓会
大阪府支部
鳥羽英紀
大阪市大正区平尾5-18-13
TEL 06-6551-0565
FAX 06-6553-4100

諸先生には平素何かと御協力御指導を賜り有難う御座居ます。又、益々御清栄のこととお慶び申し上げます。
今年も在阪各歯科大学同窓会の行事が活発に行なわれています。この八月の中頃に地方にある某歯科大学の同窓会新入会員歓迎会に招かれました。四十名余りの新入会員数にびっくりしました。ちなみに我が九歯大では数名の新入会を迎えています。
先日私の同級生が福岡より来阪しました。福歯大父兄関西地区懇談会に父兄会副会長として

の職務訪問であります。大学側四名父兄側一名の五名一組としてそれぞれ各地に会合をもつてのことです。これこそ卒業後、大学との強い「きずな」を結び一因であるように思われます。
我が、母校に於きましては恒例の評議委員、支部長会がありいつも話題に成る事項、それは未入会の同窓会員の導入方法、処置であります。非常になさけないことでもあります。彼等には同窓会は、魅力をもたないからであります。どうすればいいか。

本部役員の先生は常に申されます。九州歯科大学の卒業生であると言う誇りをもちなさいと。遠く離れた地方に母校をもつ同窓会にとって母校の誇りのみでは会員は結束致しません。もつと同窓会員としての利点はないものかと思わざるを得ないのであります。
関東地区の先生が質問されました。我が母校に推薦入学の制度は出来ないのかと。学長は答えました。不可能ではないと、時間と努力が必要であると申されました。
もしこの制度が導入され施行されるように成りましたら、同窓会の結束力は強大なものに成るのは間違いないと思うのであります。
今後とも、諸先生方の御指導御鞭撻の程、よろしくお願い致します。



母校、九州歯科大学キャンパスの中で、数々の行事、イベントが開かれ数多くの思い出を刻んだ記念講堂が、その歴史的使命を終え、解体されることとなりました。
卒業後、年月を重ねることに、九州を訪れる回数も減り、小倉の母校ならびにその周辺の様子が、急速に変化していく様子を直接に訪れて見る機会も本当に少なくなっていました。
伝統ある下宿が廃業したり、マンションに変わったたり、お世話になった下宿・食堂・公衆浴場のおじさん・おばさんたちの訃報に接したりと、寂しさのつるでできごとも多くなりました。
でも、新しく生まれ変わる九州歯科大学キャンパスの中で、未来に向けて輝かしい一步を刻み始めた、我が母校を、これからはもうずっと応援していきたいと思えます。新しい付属病院が完成したら、ぜひ皆でお祝いに行きたいですね。

学 術 講 演 会

日 時 平成7年10月28日(土)
場 所 モリタ船場支店



平成7年度の近畿北陸地区連
合会学術講演会は、10月28日(土)
にモリタ船場支店の会議室にて
開催されました。

当日は、近畿大学医学部附属
病院口腔科にて活躍されている
濱田傑先生(大学26期)に、「顎
関節症の診断と処置」のテーマ
で講演して頂きました。一般臨
床医が頭を悩ませている顎関節
症に関して、その概略、定義、
鑑別診断から治療法に至るまで
ていねいに解説して頂き、大変、
参考になった次第です。

当日の講演内容の要旨は、次

の通りです。

1、顎関節症とは？

① 3大症状(疼痛、雑音、機能障害)

② 日本顎関節学会の分類

- ・ I型 咀嚼筋障害
- ・ II型 慢性外傷性病変
- ・ III型 顎関節内障
- ・ IV型 退行性病変
- ・ V型 精神的因子等によるもの

2、GPにおける顎関節への関わり方

① 日常診療の中の顎関節症に気づく

② 顎関節症を起こしにくい咬合をつくる

③ 鑑別診断

④ 分類

⑤ 顎関節症の治療

⑥ 咬合の再構成

⑦ 経過観察と咬合の管理

3、顎関節症の鑑別診断

① 除外診断を行う。類似

の症状を起こす他科の疾患をよく知るべき。

② 慢性疼痛やその他の症状を顎関節症だけのせいにしていない。そのバックグラウンドに重要な疾患が隠されていないかを探る。

4、発症の誘因と原因

顎関節症に不正咬合が多いのも確かである。欧米では、咬合はむしろ、ストレスなど他の因子でいったん成立したTMDの症状を悪化させるように働く2番目の因子である、ともされている。(心理的ストレスなど↓強い筋緊張そして円板の転位)

5、顎関節症の画像診断

6、スプリントについて

7、顎関節症の治療

薬物、スプリント、理学療法、あるいは心身医学的療法、顎関節鏡など。

8、咬合の再構成

治療終了後、スプリント

を除去しても症状の再発がない場合は再構成を行わず、重要な咬合上の問題がある場合、再構成を行う。

顎関節症は、終診のない一生に渡る長期的管理が必要な場合もあり、病院と地域のホームドクターとの関係も益々大切である。

以上、大変有意義な内容でした。濱田先生には、貴重なお話をして頂き、本当に有難うございました。



平成八年

社保講習会・新年会

日時 平成8年1月28日(日)午後3時
場所 鳥よし本店



新年恒例である社保講習会では、大阪府歯科医師会常務理事、太田利光先生にご講演して頂き、4月の点数改正を前にした現状報告も含めて解説をして頂きました。

午後5時から、新年会となり、29期青木修一先生の楽しい司会進行にて、まず鳥羽英紀支部長が新年の挨拶をされ、続いて乾杯、宴会となりました。各先生方の近況報告を中心に、大

いに飲み語らう内に予定時間が過ぎ、お開きとなりました。30名近い同窓の先生方が集まり、楽しい一日となりました。



福祉・慰安旅行

日時 平成8年3月16日(土)
場所 グリンピア三木

平成7年度行事である、福祉・慰安旅行を平成8年3月16日(土)に、グリンピア三木にて行いました。当日は、夕方までに現地集合し、出席者一同で楽しく夕食をすませ、セミナー・ルームにて、29期青木修一先生を講師に学術講演会を開催しました。全国の各種講習会に積極的に参加されている青木先生、日頃の研究成果を色々とお話して頂きました。テーマは「小矯正・歯牙挺出を中心にして」で、保険医協会新聞にも掲載された青木先生のテクニクを教えて頂いた他、エンド、咬合採得、印象材・石こうの取り扱い方など、臨床に役立つポイントも解説して頂き、大いに役立ちました。講演会后、部屋に戻ってから、皆でマジジャン卓を囲み、ビールを飲みながら、深夜まで楽しく語り合った次第です。次の日は、ゴルフ・テニスを



予定していましたが、残念ながら雨天となり、一部予定を変更して解散となりました。

平成八年度 支部定時総会

日時 平成8年5月26日(日)午後4時
場所 鳥よし

平成8年度大阪府支部定時総会は、5月26日(日)午後4時からナンバの鳥よしにて開催されました。

総会は、長崎三男先生の司会進行にて、戸倉良樹先生の開会の言葉にて始まり、まず支部長鳥羽英紀先生が挨拶され、続いて物故会員、専門11回、池田康雄先生、大学1期、行徳友親先生のお二人に黙祷が捧げられました。

次に、平山稔先生を議長に選出し、会務報告が山本克彦先生より、評議員会報告が松本泰雄先生より行われました。

続いて議題に入り、会計西本達哉先生より平成7年度決算報告があり、監事中村義金先生より監査報告も行なわれ、それぞれ承認されました。

さらに、平成8年度事業計画案ならびに予算案も西本先生よ

り発表され、全て承認されました。

以上の審議を経て、総会は山本克彦先生の閉会の言葉にて無事終了いたしました。

続いて、午後6時より懇親会ならびに新入会員歓迎会が開かれ、各会員の先生方の近況報告を中心に、大いに語り合い、予定時間が過ぎてお開きとなりました。



会員だより

80才を考える

平山 稔 (専19回)

45年前のことである。同級生の友人より、「君、家で診療している者は、老化現象は、始めは足腰から来るぞ!」と言われたが、当時未だ、剣道、庭球、野球といった具合で、まさかと思ひ、気にもとめなかった。

昨年3月の血圧測定時、検尿をした時、タン白が少し多いので一度専門医を受診するようすすめられ、専門医を訪れた。X線検査の結果、膀胱に小さなポリープを発見、今なら簡単に取れるから取りましょう、ということが入院・手術となった。そして、約20日間で退院することが出来た。

しかし、当分の間はスポーツ禁止との事で、丁度暑くなって来た時期でもあり、家にひきこもりテレビの守でもする事となった。夏も過ぎ朝夕涼しくなり、さて運動でもと思ひ、スポーツウェアに着替えて外に出てみた。何と足がフラフラして長時間耐

えられそうもなく、自分自身を見失ってしまい、又一步から出直しを痛感する次第です。

自然環境にめぐまれ、周囲に服部緑地という立派な場所にながら、宝の持ちぐさを感ずる次第で、そのみならず年齢80才にもなると、今までと異なり年齢にあった各行事やスポーツを、と考える今日であります。(平成8年の9月記)

+++++

九齒大テニス部の想い出

松本 泰雄 (大9期)

小生の教養部時代は、久留米大学商学部で始まった。テニス部キャプテンの古賀先輩は、とても良い方で、タバコは絶対に吸ってはならない、ときつく言われたので、幸いにも現在まで吸わずに來られた。

その頃の教授はともユニークな方が多かった。例えば、「ダイヘン」。出席簿を読まれた時、一人の学生が5人分の返事(声を交えて「ハイ」と言う)をして、何とも言われず、「今日は全員出

席だな!!」と?(出席者はパラパラなのに)

テニスコートが教室のすぐ横だったので、小生も良くさぼってテニスをしたものだ。一年目はローラー引きとライン引きばかりで、暗くなってやっと打たせてもらう。真暗になってサーブの練習といった状況で、雨の日はダンスホールへ向けてフットワークの練習、二年目でやっと試合に出してもらった様になった。

小倉時代は、コートが一つなので、軟庭と取り合いっことで、仕方がないので美荻野や戸畑の三菱化成まで遠征して練習したものだ。あまりテニスばかりしていたので、ある教授から「前は体育大学でも行ったらどうか!!」と言われた。(その頃の夢はウインブルドンをめざしていたが?)又、天気になると、H教授は「おい松本、テニスしよう!今日は休講だ」と言われ皆喜んでいた。九齒大は大変強くなり、北九州では常にNo.1の座を確保していた。又、6年間強烈に体をきたえたので、卒業一度も病気をした事がなく健康で

す。

テニスは、みかけはやさしそうだが奥が深く、まず10年はかかる様で、最後まで戦い抜く精神力、忍耐力、気力、体力、努力、根性、協調etc、社会に出て大変役に立ちました。まず健康!! (健康は財産です) 皆様も秋空に白球を追って楽しんで下さい。ストレスは飛んでいきますよ!!

(平成8年9月記)



93年近北総会・テニス会にて (林教授を囲んで、前列左から3番目が小生です)

私の九齒大同窓会 大阪府支部の回顧

堀之内 藤彦 (県5回)

大阪府支部だよりの原稿を、豊田裕章先生から依頼があり、色々書いてみました。同窓会への意見希望といったものは何か説教みたいなことになり、會員から反発も受けそうで止めますが、まわりが他校の方々ばかりの大阪府歯科医師会の会合等で、九齒同窓の若い先生方から一寸ひと声を掛けて頂くとホッとした気分となり本当に嬉しいものです。

私が九州から当地へ移転し大阪府歯科医師会へ入会したのが昭和二十九年で、その当時は同窓会のこと等全然知りませんでした。余りにも昔のことです、余り覚えていませんが、何か全国大会のようなものが大阪で催され、大阪府歯科医師会の新聞か何か、九齒大同窓会の案内が掲載されていて、その会合に参加し、それから同窓会に出席するようにになりました。昭和三十年代の終り頃のことです。

戦中戦後の教育を受けた私には、先輩は怖い感じのする存在で、今の民主的な考えとは多少異なった気のある時代でした。そして同窓会のお手伝いをしていくうちに、昭和四十年四月の定時総会で理事(会計)に選ばれ、その時から私の同窓会役員が始まりました。

昭和四十一年六月に製作した會員名簿に掲載した人員は六十三名です。支部会費は四八〇〇円、本部会費は一五〇〇円、本人死亡時五〇〇〇円、一ヶ月以上の休業時五〇〇〇円、昭和四十四年から別途一〇〇〇円を徴収し、死亡時五万円をおくる、大体以上が私が理事に選ばれた当時の支部会則の一部です。

次に当時の支部役員名を記したいと思います。(敬称略)

支部長	平山 稔	豊中市
副支部長	中村義金	大正区
理事(庶務)	岡 貞夫	浪速区
理事(会計)	堀之内藤彦	生野区
監事	水野 巖	西成区
監事	池田康雄	東大阪市
本部評議員	天津正嗣	
本部評議員	堀之内 藤彦	

近畿連合会から本部評議員

中村義金

当時、記念講堂を建てたりする為に、九齒期成金なるものが作られ、その代表理事に、平山稔・中村義金、当時の本部長は穂坂恒夫先生でした。学長は坪根政治先生だったと思います。次に大阪府支部名簿を記載してみたいと思いましたが、六十三名中三十八名が死去あるいは転出廃業しておられます。とても今回は記載出来ません。若し許される機会がありましたら書きます。同窓会のご発展を祈ります。

(平成8年10月記)



編 集 後 記

◎ 大変遅くなりましたが、九齒大同窓会大阪府支部の会報として第2号の支部だよりをお届けします。日常の雑務に追われ、編集作業も先送りの日々が続き、申し訳ありませんでした。

◎ 経済大国のはずが気がつけば借金大国日本になってしまいました。医療費の増大に対しても、国民に負担増となる改革案が実施されようとしています。今後の経済状況は大変厳しいと言わざるをえません。

◎ やはり難局を乗り切るためには、個人での行動のみならず、団結力が大切です。益々皆で力を合わせていかねばなりません。同窓としてがんばりましょう。

(編集委員会)